1分間に17人（内12人が子ども）
1日に2万5,000人
1年間では約1,000万人が
飢えのために生命を失っています。

一般財団法人
日本国際飢餓対策機構

2018 2 No.331

飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる

妹に勉強を教える姉（カンボジア・スバイルー）

Child Supporter チャイルドサポーター
特集 P.3~P.7

ミャンマー
ロヒンギャ難民緊急支援
P.2

愛を選び続けましょう

日本国際飢餓対策機構　広報主任 鶴浦弘敏

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にある17目標の1番目「貧困をなくそう」と2番目「飢餓をゼロに」は日本を含む世界の国際飢餓対策機構のビジョンであり、支援者の皆さんと共に目指しているゴールでもあります。またこれは当機構の海外駐在員及び現地パートナーと様々な取り組みを続けてきたことです。特に「ビジョン・オブ・コミュニティ」という、現地の人々自らの視点に立ち、自らの資源と力で自立に向かうための新たなアプローチは「飢餓と貧困」を克服していく上での重要な推進力となります。

目標の2030年はまだまだ先のように見えますが、今からわずか12年後となり、12年後に「飢餓・貧困をゼロに」という目標が達成されるならば、当機構や支援者の皆さんにとってもこの上のない喜びであります。そして飢餓対策機構という組織の存続が見直されることにもなります。からだだけではなくこころの飢餓もなくなる本当の意味での持続可能な社会が生み出されていくならば、当機構はその使命を終えて解散という最高のゴールを迎えることができます。

しかし今日本が位置する東アジアでは、国と国との緊張状態が高まりつつあります。戦争回避のための硬軟交えた対話は続いていますが、一方で互いに軍備増強の備えも抜かりなく、といえば語弊があるかもしれませんが、着実に強められています。日本の防衛費も6年連続増となる予算案が計上されています。さらに米国のイスラエル大使館エルサレム移転計画は、中東地域の緊張状態をさらに高めていく懸念になっています。もし世界各地で次々と戦争が起これば、「飢餓をゼロに」の目標達成は非常に厳しくなるでしょう。

当機構のコンゴ民主共和国駐在員、ジェローム・カセバは、紛争の火種が絶えないコンゴで愛による地域変革（国づくりの第一歩となる）を現地の人々と続けています。彼は2014年の世界食料デーの大会講演でこう語りました。「紛争やテロの問題解決は愛以外にありません。紛争が続く限り飢餓はなくなりません。」

「憎しみから生まれるものは破壊、愛から生まれるものはいのち」。名言ではなく、誰の心にもある良識です。これからも愛を選び続けましょう。愛を信じていきましょう。最高のゴールを迎えるために。

ミャンマー 少数民族ロヒンギャ難民の 緊急支援を応援ください

隣国バングラデシュに逃れるロヒンギャの人々65万人、そのうち55%が18歳未満

ミャンマーのラカイン州北部で起きた暴力行為により、隣国バングラデシュに逃れるロヒンギャ（ミャンマーのイスラム系少数民族）の人々が急増しています。その数は2017年8月25日から推定65万人にのぼり、55%が18歳未満の子どもです。大半が徒歩でジャングルに隠れながら山や川、海を渡り、人々は水も食糧もなく、体調を崩し弱り切った身体で国境を越えています。また、モンスーンによる連日の豪雨で避難場所が洪水となり、難民をさらに苦しめています。

過密状態の避難民キャンプや仮設住宅では、トイレも1つを100人で共有しているような状況です。このような衛生環境が整わない状況下で安全な飲料水が不足し、手洗いの習慣もないこと、医療施設から遠く離れていることで命を危険にさらす感染症や急性水様性下痢症などの蔓延も懸念されます。特に5才以下の子どもたちの多くが栄養不足と下痢で死に直面している状態です。難民を受け入れている地域の人々も同じ危険にさらされています。

過密状態の避難民キャンプで暮らす人々

衛生状態の改善に取り組む

ＦＨバングラデシュはパートナー団体と共に、バングラデシュのコックスバザールのロヒンギャ難民とその受け入れコミュニティの住民40万人余を支援するために、健康と衛生状態改善に取り組んでいます。

またＦＨは、ユニセフおよび国際医療チーム(Medical Teams International)と共に必需品の配布をし、移動医療隊（MMUs）を作ってコミュニティの中を回り、多数の難民到着や新しい地への移動、緊急医療に対応して来ました。

二つの移動医療隊に加えて、クツパロン・キャンプの現地NGOの協力を得て、コミュニティ保健従業員プログラムを行い、その働きを強化する予定です。これは40人の衛生ボランティアが難民とその受け入れコミュニティの人々に対して、衛生や下痢症予防法及び手当の方法を教えるものです。人々は手洗い、飲料水の浄化方法、病気の予防法なども学びます。

これらの活動は皆様のご支援、ご協力がなければ行うことができません。どうぞロヒンギャ難民とその受け入れ地域の人々を皆様の愛で支えてくださいますようお願いいたします。

ロヒンギャ難民緊急支援

募金目標150万円

郵便振替00170-9-68590
日本国際飢餓対策機構
通信欄に「ロヒンギャ難民」と明記。
ウエブサイトからクレジットカードもご利用になれます。
支援についてのお問合せは大阪事務所 Tel:072-920-2225まで。

特集

Child Supporter
チャイルドサポーター

FHカンボジアで行われている「歯みがき講習」の様子

子どもが子どもらしく成長できる地域づくり

最近は日本でも給食費の未納問題や「子ども食堂」の取り組みなどがメディアで取り上げられ、「子どもの貧困」が問題になっています。子どもが十分に食べることができずお腹を空かせていると聞けば、心が痛み、何とかしてあげたいと思うのは自然なことでしょう。しかし、日本でも世界でも、苦しい状況にある子どもを救うには、子ども本人に手を差し伸べるだけでは限界があります。その子どもの健やかな成長に、責任を負っていくはずの親、教師、自治体職員など、周りの大人がその役割をきちんと果たせるように手助けすることで、今、苦しんでいる子どもだけではなく、将来生まれてくる子どもも、家族や近所の大人に愛され守られて、子ども時代を子どもらしく過ごすことができるようになります。

日本国際飢餓対策機構は、世界中の現地パートナーと共に、子どもが子どもらしく健やかに成長できる地域作りを推進しています。その一環として、**バングラデシュ、カンボジア、フィリピン、ウガンダ、ボリビア**の5ヵ国で、「チャイルドサポーター」の取り組みを実施しています。

「性差別」、「健康」、「指導者育成」、「教育」、「文化と世界観」、「生活手段」、「災害予防」の7つの分野にわたる取り組みを通して、極度の貧困状態にある村の人々が、隣近所互いに助け合い、将来に希望を持って、自分たちの手で自分たちの生活を改善していけるようになることを目指して、人々と共に歩む支援が行われています。

『世界里親会』から『チャイルドサポーター』に変わって1年が経過しました。これからも「子どもたちが健やかに成長する環境を整えること」ができるように皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。
各地域から、様々な取り組みや成果の報告が届いていますので、ページをめくって、ぜひご一読ください。

チャイルドサポーター事務局
電話 072-920-2226（直通）

Child Supporter チャイルドサポーター

チャイルドサポーターの取り組みに参加して、自分も他者も愛する大切さを知りました

[健康]

ウガンダ（ナムトゥンバ地域）

トイレの近くに簡易手洗い設備（写真）を設けるように、地域のボランティアスタッフたちが近隣の集まりで人々に指導しました。また食器洗いの後にお皿を乾燥させるためのお皿立てを置いて、家庭内での衛生面の改善を図りました。マガダ地区だけで400個が設置されました。

ボリビア（アサワニ地区）

食生活に問題のある子を助ける

5歳未満児を対象として「保健・食事の栄養改善」、またアサワニ地区やヤルビコヤ地区で、地域の栄養改善に取り組むグループと施設での活動を開始するための準備に一生懸命取り組んでいます。ボランティアリーダーたちに本当に感謝しています。彼らは、最も必要を覚えている家族の助けになれるように、とりわけ食生活に問題のある子どもたちのために助けになりたいと願っています。一方、学校と家庭の温室と屋外で行われている栽培果樹園のプロジェクトは、ウアンカパンパ地区・チョンゴ地区・ヤルビコヤ地区で成果がでています。

また毎年、学校では子どもたちへの衛生教育にあわせて、せっけんやタオルなどのキット（写真）が配布されています。

[〈職業〉教育]

ウガンダ（ナムトゥンバ地域）

夢の実現に歩むヘンリー

2000年3月に誕生したヘンリーは、マガダ地区で農業を営む家庭の6人兄弟姉妹の長男です。家族は一日の大半を畑で働き、わずかな収入で食べる毎日を過ごしていました。好奇心旺盛で勤勉なヘンリーは、地域のために責任ある大人になりたいと願っていましたが、貧しさ故に親からのサポートはなく、いつの間にか夢から遠のいていました。

FHがナムトゥンバで活動を始めた時、ヘンリーはチャイルドサポーターの支援に登録されました。神様に感謝し、再び夢への実現に希望を持つようになりました。

2016年、彼は学びのチャンスをさらに生かすことを考え、溶接技術とドアのフレームを作る学びをするために職業技術学校に行くことを決めました。12㎞の道のりを通う日々にあっても、夢の実現を目指せていること、たくさんのことを学べていること、たくさんの友人ができたこと、実際に、ドアのフレームを自分一人で作ることができるようになったこと、更には経済的に両親をサポートできるようになったことを心から感謝しています。

必要な経験を積み、資金の準備ができた暁には、自分の作業所を開くことを願っています。ヘンリーは神様とFHに感謝をしています。また彼のために教育費を支援してくださっているサポーターさんに、神様が報いてくださるように祈っています。

[生活手段]

フィリピン（スラ地区）

貯蓄で相互扶助を実現

スラ地区の1つの貯蓄グループ（写真㊦）には12名のメンバーが所属しています。メンバーたちは、貯蓄金からローンを借りて、緊急事態やそれぞれの生活の必要に対応しています。ある人は、ローンを利用することによって目の検査を受けることができたと語っています。別の人は、子どもの学校の学費に充てることができたと語りました。

このグループは貯蓄グループの中でも元気があり活発です。1期目（6ヵ月）を終えた後すぐに2017年6月から2期目の活動に

入っています。1期目では、11名のメンバーしかいませんでしたが、2期目になると17名に増えました。

スラ地区のメンバーは2017年6～12月の期間は（雨期で漁に出られないため）収入が少ないことを予想していますが、それでもメンバーの多くが最低額以上を貯蓄し、中には毎回の集まりごとに10回分の貯蓄額を納める人もいます。1回分の貯蓄額は20ペソ（約45円）で、これが納めるべき最低金額です。

彼らは今では、緊急な治療や教育面で必要がある時、グループからお金を借りることによって必要金額の工面が容易になりました。またビジネスを始めるに際には、大きな金額を借りることができるように取り決め、借りた者も毎週きちんと返済しています。メンバーは喜んで貯蓄し、同時に注意深く資金を管理しあい、ローン返済の期日を過ぎないように固く決心し、グループの規定を破らないように努めています。

ボリビア（アサワニ地区）

ウアンカパンパ村の人たちは、散水設備の設置を行っており、じゃがいも、大麦、豆の苗に噴水できるように、FHのサポートを得ながら進めています。

[世界観]

フィリピン（ビコール地域）

自己認識へのアプローチ

ビコール地域では、青年のために2日間のサマーキャンプ（写真㊦）を5月に実施しました。マトノグ地区からはFHの支援を受けている35名、またスラ地区から10名が参加しました。心理社会的活動を通して、自信を養うことが目的でした。

一般的に、地方に暮らす青年は内向的で恥ずかしがる傾向にあります。自分の感情を自由に表現できないのです。このキャンプを通して、彼らは自信が養われ、また互いに関わり、友だち作りもできるようになりました。一人の参加者は、自分を愛することができるようになり、思っていることを他の人に分かち合うことができるようになった、と語ってくれました。

「愛」についてのセミナー

2017年5月、マトノグ地区で「愛」についてのセミナー（写真㊤）を実施、50名の若者が参加しました。この目的は、若者たちに、本当の愛についての正しい定義を知ってもらい、愛する優先順位について、また早期のデートがもたらす結果について教えることでした。神様が正しい男性・女性に出会わせてくれる時まで待つことを励まし、また、他の人を愛する前に、まず主イエス様を愛することから始めて、そこから愛をいただきましょうと伝えました。

日帰りキャンプ

今年のキャンプはマトノグ地区で「神様はすばらしい」というテーマで2017年5月16～20日に行われました。合計76名の子どもたちが参加しました。子どもたちはとても生産的な時間を過ごしました。アートの時間、ダンスの指導、記憶力を磨く練習、大切な価値観（規律を守ること、集団的努力、チームワーク、神を愛すること）を学びました。

保護者向けの価値観の学び

FHでは親の持つ役割が子どもの成長に大きな影響を与えると認識しているので、保護者向けに価値観の学びが実施されました。子どもだけでなく、保護者に対しても様々な価値観について教えることはとても大切なことです。

Child Supporter チャイルドサポーター

貧困状況を改善しながら将来に歩み出した2家族

カンボジア・スバイルー地域
【ラン チンと家族】

子の教育から始まった家族の変化

ラン チンさん（12歳）はバンミリア村に住む小学3年生、お母さん（56歳）、兄（14歳）と暮らしています。

●FHの活動に参加するまで

ラン チン：以前は勉強に興味はなく、英語を教わる機会もありませんでした。

母：健康・農業・貯蓄・教育などにわたってトレーニングをしてくれる団体がこの村に来たのは初めてです。私は子どもたちを学校に通わせることについて無関心でした。また村人が生活を良くするために話し合ったり、衛生状態を気にしたりはしていませんでした。栄養のバランスなども考えず、食べられるものを食べていました。

●活動に参加したきっかけ

ラン チン：私はチャイルドサポーターの支援に登録され、子どもクラブの活動に参加するようになりました。母は健康ボランティアチームからトレーニングを受けています。また貯蓄グループのメンバーにもなりました。

●生活の変化

ラン チン： FHスタッフが学校に通い続けるように励ましてくれ、勉強の大切さを母に話してくれたので、学校のある日には、私と兄に畑仕事を頼まなくなりました。

母：娘は友だちも増え子どもクラブでたくさんのことを学んでいると話してくれます。清潔にすることや良い価値観を身につけています。自信を持って自分の意見を言うことができるようになりました。FHは家を清潔にすることで家族（特に子ども）の病気予防、また野菜を育てることなども教えてくれました。また私は貯蓄グループで貯蓄を始めて、グループから150ドルを借り、子どものおやつやカンボジアの朝食を販売する商売を始めて収入を得ています。

●将来

ラン チン：高校まで進学し、先生になって村の子どもたちを教えたいです。村の人には勉強の大切さ・価値を理解してもらいたいです。しっかり勉強してこの村の子どもたちの良いお手本になりたいです。

バングラデシュ
【主婦ジャスミン カトゥン】

縫製トレーニングを経て収入が向上

女性開発グループのリーダーを務めています。夫リンク モンドルは37歳の日雇い労働者で2人の男の子、9歳のジャヒド、2歳のジハドがいます。ジャヒドはチャイルドサポーター制度の支援を受ける子どもとして登録されています。

ジャスミン夫婦は農地を所有せず、夫の月給約8,000円で暮らしています。ジャスミンはマチュパラ地域でFHが2017年3月から縫製トレーニングを始めたので、3ヵ月間の訓練を受講し、FHからミシンを提供（写真㊨）されました。

トレーニングを終えた彼女はスカートやズボン、ブラウスなどを製作し、毎月約4,700円の収入を得て夫を助けています。いつか洋服の店を開きたいと思っています。貯蓄をして子どもたちの教育に備えることも考えています。このように貧困生活を改善するためにFHが助けてくれたことを感謝しています。

サポーター30年を目指して

松田美也子（まつだみやこ）さんと青木稔牧師（あおきみのる）（志賀キリスト教会）

めぐみレター
チャイルドサポーターさんの広場

【松田さん】私たちの教会は1990年から27年間にわたり日本国際飢餓対策機構を通して世界の子どもたちを支援してきました。多い時は6人の子どもたちを同時に支援していた時期もあります。現在はウガンダの男女の子2名とボリビアの男の子の計3名です。

またさらに古く1985年からつけているこのノートには、毎月自分たちの食事代から、世界の飢餓に苦しむ子どもたちを覚えて募金した32年分の記録が綴られています。ハンガーゼロやチャイルドサポーター、JIFHの海外スタッフ支援の募金などすべて合わせると1400万円以上になり、自分たちでもよくこれほど長く働きを続けてこられたなと驚かされます。

その理由を今振り返ると、年に一度、私たちを訪れて世界の飢餓の現状を伝えてくれた日本国際飢餓対策機構のスタッフによるお話や、毎月送られてくる飢餓対策ニュースに加え、サポートする一人一人の子どもの名前を、自分の子のように日々覚える生活の中から、自然とそれまでは知らなかった世界の多くの子どもたちを取り巻く厳しい諸問題に心の目が開かれ、理解が深まったことによるものだと思います。

もちろんその間には支援の継続に困難を覚えるような出来事がなかった訳ではありません。例えば、自分たちに生まれてきた子どもが大きな病気をしたとか、何人ものお子さんが大学に通うまでに成長し金銭的負担が増えたりとか色々な出来事がありました。しかしその度に自分たちよりも、もっと大変で命に関わる困難に直面している小さな子どもが今この時も世界中にいることを思う時、仲間同志で互いを励まし合って募金を続けてくることができました。

孫世代にも継承したい

その結果、今思うことは自分たちに続く次の世代にこの支援をバトンタッチしていきたいということです。もう何年も前になりますが私たちの息子が中学生の時、学校の弁論大会で世界の飢餓問題を取り上げ、5秒に1人の子どもが飢餓で亡くなっているという話をしたことがありました。その息子ももう親となり、今では孫が小学校に通う、ちょうどサポートしている子どもたちと同年齢になってきました。この孫世代にもぜひ世界の飢餓の現状を自分の家族の問題と同様に考え生きる子になってほしいのです。そのためにチャイルドサポーターとして30年、そしてその先もこの支援を続けていきたいと願っています。

自発的な思いが育ってきた

【青木牧師】30年近くにわたる支援を続けてきた中で、私たちの教会では、社会の弱者と呼ばれる方々に対する温かい眼差しを持つ人が多くなってきたように思えます。それはチャイルドサポーターを通して一人一人が世界のもっとも弱いと思われる子どもたちのことをいつも覚えるようになったからだと思います。また緊急時には互いに助け合おうという自発的な思いが教会に集う皆さんに自然に育ってきたことを、感謝しています。

現在支援中のウガンダとボリビアの子どもたち

Child Supporter チャイルドサポーター　2つの支援方法

子どもを支援する

支援地域の特定の子どもとつながり、
その地域で行われる活動を支援いただきます。
あなたと出会い、応援を受ける子どもは自分が
愛される大切な存在であることに希望を抱き、
地域を変えるひとりへと成長していきます。

月々4,000円
子ども1人を支援することできます。

活動を支援する

子どもたちが暮らす地域で行われる
様々な活動を支援いただきます。
地域に住む人々がそれぞれの役割を果たし、
子どもを取り巻く環境の改善と
質の向上を目指します。

1,000円～
月々または自由なタイミングで支援できます。

詳しくはウエブサイトへ

支援のお申込みは、ウエブサイト又はお電話でCS事務局へ 直通TEL072-920-2226

飢餓対策ニュース　第 331 号　発行日 2018 年 1 月 20 日（毎月 20 日発行）定価 15 円

日本国際飢餓対策機構（Japan International Food for the Hungry：略して JIFH）は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体（NGO）です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人財育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合（Food for the Hungry International Federation）の一員として、20ヵ国 60のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころとからだの飢餓」に応える活動をしています。

★Tポイントを利用して「南スーダン・マブイ小学校給食支援」ができます。現在までに516533ポイント（円）のご協力（5176件）がありました。募金はTポイント募金で検索

こころとからだの飢餓問題を学びませんか

ファシリテータートレーニング参加者募集中！

3月19日から23日までの日程で開催する「ハンガーゼロ・ファシリテータートレーニングキャンプ in 東京」（東京基督教大学内）の参加者を募集しています。このキャンプは、将来、途上国の人々と共に生き、働きたいと願っておられる方、また世界の諸問題について知りたい方に「飢餓とは何か」、「その原因って」、「自分には何ができるのか」を考える時間を持っていただくためのキャンプです。共同生活をしながら、専門的な講義とともに参加者同士でグループワークもして楽しく学べます。

参加費3万円（食費・宿泊費込）※会場までの交通費は除く

お申し込みは、JIFH 東京 03-3518-0781

バレンタインの贈り物に

～売上の一部からロヒンギャ難民支援～

フェアトレードチョコレート2種類（種類はおまかせ）を1セットで1,000円。（梱包発送料200円を含む）。ポストにお届けします。

※バレンタインのプレゼント用にはフィリピンのフェアトレードパッケージでラッピングしますのでお申し込み時にお伝え下さい（別途100円を加算）。

・お支払いは後払い　郵便局払込で株式会社キングダムビジネス口座へ。

【問合せ】キングダムビジネス

〒540-0026 大阪市中央区内本町1-4-12 NPOビル402

TEL:06-6755-4877　FAX:06-6755-4888

メール：customer@kbwin-win.org

Web：キングダムビジネスで検索

「しあわせなら手をたたこう」作詞者のおはなしとコンサート

誰でも一度は歌った「しあわせなら手をたたこう」の作詞者・きむらりひとさん（早稲田大学名誉教授）を交えて、この歌が誕生したエピソードや歌詞に込められた本当の想いを語っていただきます。

福音歌手・森祐理さんとのジョイントステージで楽しいひとときを過ごしませんか？

お問合せ・お申し込みTEL.03-5341-6927（いのちのことば社ライフ・クリエイション）

日　時　3月21日(水・祝)

開　演　午後3：00～4：30（開場 午後2：30～）

会　場　お茶の水クリスチャン・センター8F チャペル

参加費　入場無料〈自由献金あり〉

＊先着200名様限定のためご予約制となります。

（TEL.03-5341-6927まで）

主催：いのちのことば社ライフ・クリエイション

後援：一般財団法人 日本国際飢餓対策機構

Child Supporter チャイルドサポーター お申込用紙

今すぐ▶▶▶ 各種支援のお申し込みができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。

お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

チャイルドサポーター申込書

フリガナ
氏　名（グループの代表者名）　［男・女］

所属団体名（グループ支援の場合）

フリガナ
住　所　〒

電話　e-mail

支援方法（☑ご希望の方法をお選びください）

☐ 郵便振込（ATM80円～）　☐ 郵貯自動振替（手数料25円）　☐ 銀行自動振替（手数料100円）

※クレジットカードからの申込はweb よりお願い致します。

☐ 子どもを支援します。
月額１人 4,000 円

＿＿人 紹介してください。

国の希望
第１希望 ＿＿＿＿＿＿＿＿
第２希望 ＿＿＿＿＿＿＿＿
※ご記入がない場合は「指定なし」といたします。

性別の希望　［男・女・どちらでも］※○で囲む

子どもからの手紙は日本語への翻訳が［**必要・不要**］※○で囲む

☐ 活動を支援します。
月額１口 1,000 円を＿＿口申し込みます。

今回のみの募金は郵便振替 00170-9-68590まで通信欄に必ず「チャイルドサポーター」と明記下さい。

FAX・072-920-2155

■発行者　清家弘久

■発行所　一般財団法人　日本国際飢餓対策機構

ハンガーゼロで検索！

Webサイトアドレス　http://www.jifh.org/
eメールアドレス　general@jifh.org
フェイスブック　https://www.facebook.com/hungerzero

■募金方法　※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウエブサイトで
●郵便振替　00170-9-68590／日本国際飢餓対策機構
●他の金融機関からの自動振替●クレジット、デジタルコンビニ

今すぐ募金ができます！　かざして募金

大　阪　〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1
（広島）　TEL（072）920-2225　FAX（072）920-2155
東　京　〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル 517 号室
（東北）　TEL（03）3518-0781　FAX（03）3518-0782
愛　知　〒460-0012 名古屋市中区千代田 2-19-16 千代田ビル3F
TEL（052）265-7101　FAX（052）265-7132
沖　縄　〒900-0033 那覇市久米2-25-8　メゾン久米 202号
TEL（098）943-9215　FAX（098）943-9216
ＵＳＡ　Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
TEL(510)568-4939　FAX(510)293-0940

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするために、ひばり障害者作業所（八尾市）、生活愛、関西地区のボランティアの皆様が発送作業の協力をして下さっています。

「かざして募金」はスマートフォンからご利用できます。募金は、ソフトバンクモバイル（株）経由となります。詳しくはウエブサイトをご覧ください。